

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		わんぱくキッズ					公表日	2025 年 2 月 1 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	86	14	身体が大きい子が複数で、ぶつかったりする危険がある場合には、2室に分かれて活動したり、活動プログラムを静のものにする。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100	0	活動の時間だけでなく、資料に目を通す時間も取れるように配慮している。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100	0	玄関に階段があり、注意を払っている。	手すりが回転しないようにしっかりさせる。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	86	14	清掃には特に力を入れている。また、感染症予防のために消毒したり、換気を心がけている。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100	0	クールダウンや着替え、ごきょうだいのおむつ交換など、別室でできるようにしている。				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100	0	活動の前と後に時間を設けている。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	評価表でのご指摘により、運営や活動が支えられていると感じる。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	ミーティングや職員会議などで広く意見を求めている。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100	0	日本非営利組織評価センターにおけるベーシックガバナンスチェック結果から全ての項目において「基準を満たしている」の評価結果だった。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100	0	研修には積極的に参加している。				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100	0	ホームページに公表した。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100	0	保護者の意向は重要事項であるので、しっかり時間を設け、お話を伺い、作成している。				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100	0	ケース会議等で一人一人の検討を行う。				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100	0	個別支援計画での内容は共有事項となっている。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100	0	遠城寺式やボーテジプログラム、基礎調査票評価シート「黒澤礼子」等を活用している。				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100	0	個々のニーズを踏まえて設定している。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100	0	職員会議や常勤会議等でも検討する。				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100	0	四季折々の教材や、発達によつての活動等工夫している。				

19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100	0	常に一人一人の発達には考慮して行っている。集団活動であっても、一人一人のねらいや目標を意識して支援する。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100	0	活動前にミーティングを行い、その日の活動について分担の確認や連携について話し合う。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100	0	その日の活動の反省点を挙げて、次回に生かせるようにしている。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100	0	一人一人の記録、日案、活動記録、専門的支援、子育てサポート、家族支援の内容を記録に残している。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100	0	少なくとも6ヶ月に1度以上は行っているが、必要があればその都度行っている。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100	0	時間が合えば、参加している。	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100	0	利用児童の関係各所とは連携を図り、情報を交換してより良い理解を得ている。	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100	0	併行利用している園には足を運び、担任の先生や園長先生との話し合いの場を持っている。	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100	0	保護者を通してのやり取りを行っている。	
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	86	14	見学に行ったり、情報を得たりして連携をとっている。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	86	14	コロナ禍からまだ回復していない。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100	0	話しやすい雰囲気となるよう心掛けている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100	0	11月に小集団でペアレントトレーニングを行った。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100	0	契約時に時間をかけて行っている。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100	0	契約時にアセスメントに時間をかけて行っている。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100	0	保護者の方の確認とともに、同意を得ている。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100	0	定期的にも行っているが、常にアンテナを張り巡らせて、保護者の方のニーズに答えられるようにしている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100	0	少人数で集まり、お互いの話をしあう機会を作った。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100	0	いつでも、なるべく早急に行えるよう体制を整えている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100	0	毎月1回以上はおたよりを発行し、活動の様子をお知らせしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100	0	配慮している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100	0	絵カードや視覚教材等を使用し構造化を図っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	86	14	コロナ禍からまだ状況が回復していない。地域のボランティアさんや介護体験の学生さんは受け入れている。	今後も健康上の確認等を行った上で、地域に開かれた事業運営を行っていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100	0	各ご家庭に冊子を配布して周知していただいている。訓練は定期的に行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100	0	策定済み。定期的な訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100	0	確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100	0	現在はいない。以前にはいらしたので、主治医の意見書等で指導を受けていた。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100	0	安全計画は作成済み。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100	0	マニュアルでお知らせしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100	0	ヒヤリハットの記入、検討、周知を行っている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100	0	職員は必ず研修を受け、確認している。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100	0	必要な場合は個別支援計画で了承を得ている。		